参考資料

3　新図書館の規模について

（1）目標となる蔵書冊数の設定について

基本理念・基本方針に掲げた活動を支えるためにも、資料の充実が必要です。蔵書冊数の目安としては、「貸出密度上位の公立図書館整備状況2011（日本図書館協会事務局）」によると、柴田町の人口規模では、蔵書冊数は約17万冊（3万7千人柴田町では、一人当たりの蔵書冊数は 4.59 冊）となっています。この数値は全国の市町村のうち住民一人当たりの貸出資料数が上位 10%の市町村の平均数値を基に算出したもので、全国でも先進的な図書館の平均蔵書冊数となっています。

図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成 24 年 12 月 19 日文部科学省告示第 172 号）の中には、数値目標は含まれてなく、参考資料として上記資料を掲載しています。そのため、あくまでも各自治体で検討する際の一つの参考数値と捉えています。

新図書館の蔵書冊数については、これらの数値について参考にするとともに、建物の建設費用や魅力的な蔵書を維持していくためのランニングコスト、誰もが使いやすい書架の高さや間隔、快適な読書スペースや学習スペース、交流スペース等を確保する面積などを踏まえて、今後、基本計画策定の際に検討します。

また、ここ数年の人件費や資材の価格高騰のあおりを受け、建設費用が増加することが懸念されることから、基本計画策定の際には、具体的な費用を算出して、町民の意見を踏まえて蔵書冊数や延床面積等を慎重に設定せざるを得ないと考えています。

（2）蔵書内訳の検討について

望ましい基準によると、新図書館の開架書庫と閉架書庫の構成割合は、おおむね6：4の割合となっています。また、開架図書における一般図書と児童書の割合については、6：4とし、児童書の中の絵本の割合は 5 割を想定しています。

（3）新図書館内のスペースの検討について

①開架スペース

開架スペースに設置する書架は、誰にでも使いやすい段数とします。書架の間隔は、人と車椅子が余裕を持ってすれ違うことができるように設定します。閲覧席等としては、一般的な閲覧席の他に、新聞・雑誌コーナーや読み聞かせコーナー、調べ学習室等を見込んでいます。

②全体スペース

新図書館においては、開架スペースの他に、閉架書庫やエントランス、地域コーナー、研修室等、さらに事務室や機械室などの管理部門などのスペースが必要となります。これらのスペースについては、今後、基本計画策定の段階で必要となる機能を整理していきます。エントランスは、利用者同士の交流が楽しめるようなスペースを確保します。研修室等は 30 人程度が利用できる大きさを想定しています。